

ば同様である。現在の日本の夏着は昔より薄着となっており、戸外では風も大抵いくらかあって、また炭酸ガスなどの不快なガスも少いだらうと思われるのに、この資料では平均値ではあるが指数78以上は相当不快になっていることから考えると、日本人の方が暑さに適していると言われていることは一寸うなづけないが、日本人は不快になってから我慢強いのかも知れない。また合衆国では厚着、毛深かで窓を割合開けない影響なども考えられる。

不快指数設定の目的は快の方には無いのかも知れないが、不快の良い指数とするには日本では夏は窓を開けてある場合が多いので、風速も考えに入れた方がよいと思われる、しかし風を考えに入れたヤグローの実効温度やプットナーの示度などはこんど行なった夏の体感7階級には快指数Iより対応はずっとよくない。

7. 結 語

前橋における夏季の快、不快指数と体感の関係について

述べたが、気象要素と体感の関係は人種や所により若干異り、また季節変化もするので、一般に対して体感についての予報を発表する場合には快、不快指数またはその他の体感温度を示すより、体感(S)の階級を示した方が意味がある。気象要素との関係が季節変化することについては四季別ぐらいに関係を求めれば用は足りると思われるが、次の機会にそれを行い、年変化曲線も作成して見たいと思う。

参 考 文 献

- 1) Robert L. Hendrick, 1959: An Outdoor Weather-Comfort Index for the Summer Season in Hartford, Connecticut. Bulletin of the American Meteorological Society, Vol. 40, No. 12, p. 620~623.
- 2) 神山恵三: (1960) 不快指数と体感温度との関係, 天気, 7, 9

気 象 界 消 息

1. 気象大学校

専門学校令によって専門学校とされていた気象技術官養成所は、昭和26年4月1日に廃止され、新たに部内職員の研修機関として気象庁気象研修所が生まれ、主として職能研修を行なってきた。昭和34年4月からはさらに高等部を設置し、短期大学程度の基礎教育および気象業務に必要な専門教育も行なってきたが、今年昭和37年4月1日以後名称を気象大学校とすることになった。

2. 寺田氏マニラに出張する

気象庁海洋気象部長寺田一彦氏「東南アジア地区海洋学研究機関代表者会議」に出席するため、3月3日から3月9日までマニラに出張された。

3. 北岡氏琉球に出張する

気象庁高層課長北岡竜海氏は、上高層気象観測の技術指導および設置機の点検を行なうため、3月15日から3月25日まで琉球に出張された。

4. 和達長官海外出張

本学会理事、和達気象庁長官は、5月21日から23日までワシントンで開かれる「日米科学委員会」および5月29日から6月24日までジュネーブのW.M.O.事務局で開かれるW.M.O.「第14回執行委員会」に出席し、帰路連絡協議のためインド気象局に立ち寄られる。このため5月19日から6月29日まで出張される。

5. 矢崎氏サウジアラビアに

気象庁研究所の気象測器研究所矢崎好夫第3研究長室はサウジアラビアのW.M.O.気象専門家に就任するため5月5日出発、1カ年間滞在される。

6. アメリカの核実験

アメリカ合衆国は4月26日(木)ハワイ南方のクリスマス島近くで大気中での核爆発実験を行なった。その後一連の大規模な核実験が行なわれつつある。アメリカ合衆国の発表によると、第1回の実験では4月26日0時45分飛行機から投下され大気中で爆発、規模は中型(20キログラム1メガトン級)であるが、微気圧波はわが国のどこの観測所でも観測されなかった。

7. 東京に水不足

東京地方は去年の夏以来の総降水量が少なく、その上近來消費量が大きくなったため、東京の三大貯水池の水量は、5月10日にはその容量の約1/5にまで減少した。

8. 国際火山学会開かる

噴火予知に関する国際火山学会議が、5月9日から19日まで、東京の日本都市センター、浅間山晴山ホテルおよび箱根山観光会館で開かれた。また22日から25日まで3班に分れて、それぞれ九州、北海道、伊豆大島の火山観測所などを見学した。主催は日本学術会議、国際測地学地球物理連合、国際火山学協会、日本火山学会が全面的に協力して行なわれ、参加国は20余国、著名な外国火山学者約70名、日本の専門家約130名が参加した。